

日経産業新聞

2014年(平成26年)

8月21日
木曜日

N I K K E I B U S I N E S S D A I L Y



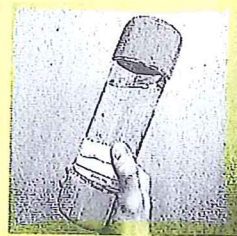
原発技術 新分野に生かす

原子力関連事業で培った技術を環境・エネルギー分野に生かす企業が増えてきた。原子力発電所の再稼働が遅れ、原子力政策の先行きが不透明なため、新規事業の立ち上げで収益化を急ぐ。

助川電気工業は高温で溶けた液状のアルミニウムを電磁力を使って鋳型に直接注入する鋳造装置を開発した。液状アルミを手作業で鋳型などに流し込むの比べ、アルミの酸化を抑える。強度や均質性も高まる。高速増殖炉でナトリウムを循環させる原理を活用した。

助川電気工業 鋳造、アルミ 酸化抑制

S.P.エンジ 効率的に水素水生成



原子力関連機器などを製造するS.P.エンジは、電気を使わずに容器ニアリング(茨城県日立市)は東洋技術工業(同市)やNTCドリームマックス(東京・中央)と提携型の水素水生成器IIを発売した。ドラッグストアなどで販売する。水素発生剤(30個入り)は3600円。

核燃料サイクル支援の検査開発(茨城県東海村)は昨秋、出力1000キロワットの大規模太陽光発電所(メガソーラー)を稼働させた。全量を東京電力に売電し、年間約4000万円の収入を見込む。

(水戸)